

福岡

アジアン・フェスティバル

安藤栄雄

一 企画が行われた期日と場所

一九八九年八月二四日(木)に「前夜祭」、翌日二五日(金)・二六日(土)・二七日(日)の三日間「アジアン・フェスティバル」。場所は、福岡市内のど真ん中、天神町の県庁跡地公園。

二 企画名

「アジアン・フェスティバル」。(主催団体・アジアン・フェスティバル実行委員会。後援団体・福岡県、マスコミ各社、福岡県評、福岡県生協連など)

三 参加者数

三日間で約一〇万人。終りに近づいた一よかトピアが猛烈に宣伝する最中に、まったくの手作りでよくもこれだけ集まったと思う。

四 プログラム・会議での主だった発言・全体の雰囲気

★プログラム☆

次のような多彩な催しが計画的に、しかも雑然と、それぞれの創意工夫をこらして行われた。

！アジア井戸端会議

- 一 生きるために海を越えて：出稼ぎ女性の問題
- 一 韓国は、いまー(一六ミリ映画も)
- 一 アジアの中の日本ー(西南中学生のスライド)
- 一 世界が見つめている熱帯雨林
- 一 人類は放射能のまっただ中にある
- 一 原発社会の未来はー
- 一 小さな島の大きな戦争！東チモールの実情
- 一 共に生きるために！民衆貿易と協同組合



一 一方の悲惨と一方の繁栄

粒の米、一本のバナナから」
一 私たちの目指す生き方・暮らし方

おしまいデイスカッション

2 出展者

ア テ マゾ ン

市民運動二七グループ、グリ・ンコ・プ五生協・一
連合。

イ 物産ゾ ン

貿易会社一六者、生協物産三九者、オルタ物産六グ
ル プ。

ウ 遊びゾ ン

つくしの文化連盟、西部生協。

エ 屋台横町

九大留学生会七カ国グループ、料理店五店、市民グ
ル プ四、六生協。

3 お祭り広場

* ベタ 演劇、カラワン ン コンサ ート。

* ウリ文化研究所 マダン劇、新谷のり子・風太郎・
南正人・友部正人・平田達彦・豊田勇造・まよなか
しんや ン コンサ ート、吉四六劇団、砂田明 ン 一人芝
居、テ プ サイドグル プ ライブ、その他太鼓・
盆踊り。

☆ 出演者のみなさんは本当に身銭を切ってやってくだ
さり、アジアからの参加者と私たちに連帯してくだ

さった。どんなに感謝してもしきれないぐらいであ
る。熱烈感謝!

4 アジア映画上映

一 異邦人の河 (エイ・ハギン)、一 トンパン (タイ)
一 カルティニ (インドネシア)、一 黒砲事件 (中
国)、一 傷あと (タイ)

★ 会議での主だった発言 ☆

フェスティバルであるから、とくに全体としての会議
はない。ただし自由な討論が行われた。アジア井戸端会
議があるが、詳細については現在報告書編集委員会が
作成準備中である。

★ 全体の雰囲気 ☆

全体的に見たら大きく盛り上がり成功したと思う。内
外の参加者に感想を聞いてみたら、

一 すばらしいフェスティバルでしたね

一 参加者が単に観客ではなくて、参加できる広場やゾ
ンがいろいろあったのでとても楽しかった

一 上っ面だけの国際化ではなくて、アジアとの深刻な
問題がたくさん提起されていた。にもかかわらず楽
しい出会いがあった

「この三日間福岡市のご真ん中に、まさにアジアが出
現したと言えるのではないか。そう言えば三日目に
断続的に降った雨もどこかアジア熱帯地域のスコ
ルみたいだったね (少し言い過ぎ?)」

などと主催者側の思いを超えた過分な言葉が返ってき

たのである。

実行委員会のまとめの文書には、「1 目的に沿ってみれば、大きくは『成功』であった。2 大衆的にやれた。混沌とはしていたが、多くの者が企画・実行に参加した。テ マゾン・井戸端会議がフェスティバルの思想軸になり、お祭り広場が花となり、物産ゾーン・屋台横町が物量を保証した。3 『アジアと民衆レベルでの連帯』が社会的に強くアピールされ、それが、通念（当たり前前のこと、特殊でないこと）として市民生活の一部に食い込んでいった。4 フェスティバルによってスタトライン・土台はつくられたのではないか。私たちがこれからどのような時代をつくってゆくかで、アジア・フェスティバルの歴史的評価は決まる」と述べているのである。

五 苦労話・財政その他

1 一番大きな苦労、というよりもネックになったのは、アジア・フェスティバルのような大規模のイベントの経験を誰一人持ち合わせた者がいなかったということである。したがって誰にもイメージが浮かばない。まして全体像がどのようなものなのか予想もつかない。ただ一人生協だけは生協祭りの経験があるが、それさえも超えたのがフェスティバルであった。昨年、実行委員会が発足はしたものの、いわば暗中模索の日々であった。一誰がこんな企画を持ち込んだのよ！？」とぶつくさ言いながらの会合の積み重ねであった。だから実行委員会

がフル回転し始めたのは、なんと今年の七月に入ってからに過ぎない。その頃になってようやく見え始めたと言えよう。

最終的にうまくいったのは、生協のような組織がいったん動き始めると大きな力を発揮したということでありそれにさまざまなテ！マに取り組んでいた市民グループや生協の中のアクション・グループが全体の方向性を出していき、最終段階で両者の長所がうまく補完し合ったということである。

また、実に多くのボランティアが参加し、多くの新しい人々と出会えたということは、今後の運動に大きな希望を与えるものである。

2 当初から問題になったもう一つの点は、結局お祭り騒ぎに終わるのではないか、やってみなければ、疲れと宴のあとの虚しさだけが残るのではないかという懸念であった。それに対して、私たちはおおよそ次のように考え、できるだけ取り組むことにした。第一は、アジア・フェスティバルはみんなが主人公であり、主人公になっていくということ。第二は、アジアの人々とできるだけ顔と問題が見える関係をつくり出していくこと。第三は、アジアの人々と共に未来をつくるため私たちの暮らしのありようをどのように変えていけるのかを考えていこうということである。

そのための一つの試みとして三つのアクション・リサーチ・グループがつくられ、フィリピン・ミンダナオの

バナナ・プランテーションおよびネグロス・民衆貿易の調査・交流、タイの東北地方の農村調査・交流、マレーシア・サラワクの熱帯雨林の調査にそれぞれ派遣し、帰ってからは報告集会・パネル展示、さらにはアジア井戸端会議の中心になって引っ張っていくなど、議論を深める努力を行ったのである。

3 財政については、実行委員会発足直後では約八〇〇万円の予算が、検討のたびに膨らみ、最終的に一八七〇万円になったこと一つを考えても苦労を重ねた。しかし、実行委員会や事務局がよく頑張ったこと、グリーンコブ生協が組織的に財政の基礎を支えることに努めてくれたことなどのため、幸い黒字決算で終えることができた。

六 あとがき

ある意味で私たちの力量を超えたフェスティバルをなしたことは、私たちに自信を与えるものであったが、同時にオルタナティブ、一水俣宣言に謳われている一じゃなかしゃば一をめぐる議論を深めることができていないなど今後にとくさんの課題を残している。その意味で、一私たちの一ピブルズプラン二一世紀の取り組みは、まさに今始まったばかりであると言わなければならない。

生存と生活をかけてたたかっている先住民のたたかいの先見性に学びながら、一水俣宣言一希望の連合一に呼応しながら、私たちもまた地域の取り組み・それぞれの

取り組みの中から一希望の連合一をつくり出したいと思
っている。

